

南ア国際協力省 (Department of International Relations and Cooperation)

26 February 2023

### 国連総会ウクライナ決議 (2.28) に対する南アの態度表明

Why we abstained on latest UN vote on Ukraine

<https://www.politicsweb.co.za/documents/why-we-abstained-on-latest-un-vote-on-ukraine--dir>

南アフリカは、1周年を迎えるウクライナ戦争が、罪のない人々の命や重要なインフラを破壊し続け、何百万人もの人々を避難させていることに深い遺憾の意を表明し続ける。

この戦争は、その影響が世界中に波及し、最も弱い立場の人々の生活に影響を与え、パンデミックにより衰弱した現在の世界の食料、燃料、金融危機を強めている。

南アフリカは、国連憲章の目的および原則に対する揺るぎない信念を強調したい。

我々は、すべての国家の主権と領土保全は神聖視されるべきであり、これはウクライナにも適用されると信じている。

また、戦争を終わらせるために緊急の行動が必要であるとの決意も固まっている。

しかし、私たち国際社会が、そのための条件を整えるための具体的な提案を打ち出すことができないのは、私たちの努力に突きつけられた悲しい現実である。

南アフリカが以前この総会で述べたように、外交と対話こそが、紛争の持続的かつ平和的な解決につながる唯一の道である。

ウクライナ戦争に関するこの決議は、この地域に武器が流入し、より大きな暴力行為と人的被害の拡大を永続化させている中で行われたものである。

このことは、核戦争の脅威と相まって、平和を達成することが難しくなっているように思われます。

昨年、国連総会は、ウクライナに関する一連の決議を採択した。

以前にも国連総会で質問したように、私たちの言動は平和の維持に重点を置いているのだろうか、それとも即時の平和達成の可能性を低くするようなさらなる分裂を作り出しているのだろうか。

私たちは、今回の決議が憲章と国際法の原則に焦点を当てていることを支持するが、悲しいかな、持続的な平和の基礎を築き、荒廃と破壊に終止符を打つことには何ら近づいていない。

私たちに必要なのは、すべての当事者による、平和への確固たる明確なコミットメントである。

確固たる行動を伴わない平和を求める決議は、空虚なものになってしまうだろう。

Statement issued by DIRCO, 23 February 2023

**(訳：SS)**